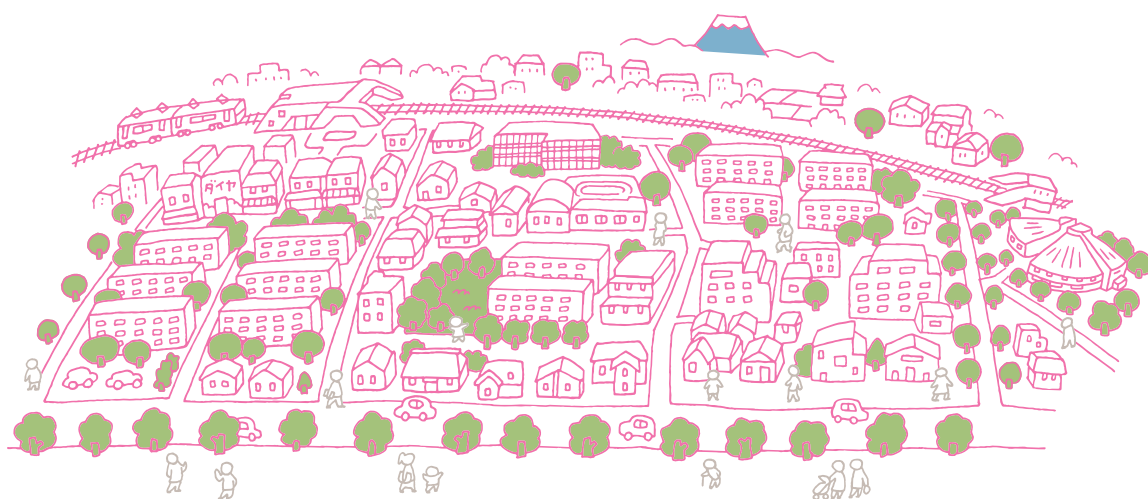


# 国立市 富士見台地域 重点まちづくり構想

令和3(2021)年5月

「まちへの愛着」を  
原動力に  
市民一人ひとりが  
手をつなぎ  
未来へ



国立市・国立市富士見台地域まちづくり協議会





このたび、地域のまちづくり関係者からなる「国立市富士見台地域まちづくり協議会」より、「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」が提案されました。

協議会の皆様が、まちへの愛着を原動力に、富士見台ミーティングを主催し、広く市民の皆さんの声を集め、そこで出た意見を基に活発な議論を重ねてこられた、そのご努力と熱意に対し、心からの敬意と感謝を申し上げます。私自身も、令和元(2019)年10月に開かれた「第3回 富士見台ミーティング」に参加し、直接市民の方と言葉を交わす中で、沢山のまちへの思いを共有しました。

国立市では、高齢化が進展する中、市制施行50周年を契機に、次の50年を見据え、市の中核である富士見台地域において、他の地域のモデルとなるような先進的なまちづくりに着手しました。本市には、第一期基本構想から受け継がれてきた「人間を大切にする」というまちづくりの理念があり、平成31(2019)年4月には「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」が施行され、ソーシャルインクルージョンの考え方を根底に据えた事業展開を進めています。

平成30(2018)年2月に策定した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」においても、その理念に基づき、目指すべきまちの将来像を「人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台《コミュニティインフラの創造・展開へ》～誰もが、生き活きと交流し、互いに支え合い、彩り豊かな暮らしを安心・安全・快適に楽しみつづけられるまち～」としました。

本構想には、この将来像を実現するために、重点的・優先的に取り組むべきことが、重点プロジェクトとして示されています。そのいずれもが、市の政策上、優先度の高いものであり、将来に向けて着実に進めていかねばなりません。

現在、国立市では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という、これまで経験したことのない危機に直面し、市民生活や行政活動が大きく変化しています。コロナ禍を乗り越え、持続可能で市民一人ひとりが輝くまちを作り上げるには、市の中核である富士見台地域のさらなる魅力向上が欠かせません。

末尾になりますが、本構想をまとめるにあたり、ご協力をいただいた、地域の皆様、そしてUR都市機構を始めとしたまちづくり関係者の皆様、専門的な視点から支援を頂いた東京大学コミュニティアセスメント研究会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

これからのまちづくりにあたっては、市民・行政・専門家の3者が一体となって進めてきた、構想づくりの形を引継ぎ、関係者が協働してまちづくりを進めていく必要があります。そのため、ここに、市民と行政の協働まちづくりの手引書として「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」を策定いたします。

令和3(2021)年5月

永見 理夫

# 目次

## 01 はじめに

これからのまちづくりを共に考え、進めよう 002

## 02 構想の見方・使い方

～協働まちづくりの手引書として活用しよう～

1 構想の位置付けと構成 006

2 構想策定の背景となる社会状況 010

## 03 構想づくりという参加と対話のプロセス

1 構想づくりの体制 016

2 場所の価値と取組ニーズ 020

3 富士見台地域まちづくりの6つの整備方針 024

4 整備方針に基づく、まちをよくする取組 026

## 04 重点プロジェクト～まずは取り組もう～

1 重点プロジェクトとは 034

2 重点プロジェクトを推進する上での姿勢 035

<b>3 重点プロジェクト01～10</b>	036
<b>project 01</b>	
市民まちづくりプロジェクト100（通称：市民100プロ）	040
<b>project 02</b>	
さくら通りを軸とした富士見台地域の魅力向上プロジェクト	044
<b>project 03</b>	
まちなかの居場所の魅力化・拡充プロジェクト	052
<b>project 04</b>	
グリーンインフラを活用したまちの回廊化プロジェクト	060
<b>project 05</b>	
谷保駅を含めた商業地のにぎわいづくりプロジェクト	068
<b>project 06</b>	
（仮称）矢川プラスを拠点とした国立市の新たなにぎわいづくりプロジェクト	073
<b>project 07</b>	
UR国立富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクト	082
<b>project 08</b>	
UR国立富士見台団地をモデルとした住みたくなる、 住み続けられる環境整備プロジェクト	092
<b>project 09</b>	
未来に向けた重点エリア検討プロジェクト （重点エリア：市役所を中心とした公共施設が集積するエリア）	100
<b>project 10</b>	
市民と行政とのまちづくり体制構築プロジェクト	106

## 05 構想の実現に向けて

<b>1 重点プロジェクトに取り組むにあたって</b>	112
<b>2 協働まちづくりの体制</b>	112
<b>3 始めよう、市民100プロ</b>	113

<b>資料編</b>	117
------------	-----

# 01

## はじめに

これからのまちづくりを共に考え、進めよう



国立市  
富士見台地域  
まちづくり

# キックオフ講演会

～富士見台地域のこれからを一緒に学んで、一緒に考えよう！～

2018.7.14(土)  
午後7時～9時

国立市



**「まちへの愛着」を  
原動力に  
市民一人ひとりが  
手をつなぎ未来へ**



国立市には、「人間を大切にする」というまちづくりの理念があり、まちの人たちは、まちに賑わいと活気、そして支え合いを生む人とのつながりを創造してきました。この理念に込めたとおり、国立市の最も重要な資源は、市民をはじめ、国立市で働く人、学ぶ人、訪れる人など国立市にかかわるすべての人間(=わたしたち)です。

超高齢社会・人口減少社会の到来を迎え、様々な世代や立場の人が抱える生活課題が多様化・複雑化し、さらに財源が縮減していく時代においては、わたしたち個々の努力だけでは持続可能な取組にできません。これまで以上に、まちに対する愛着と誇りをもった市民がより多く存在することがとても重要となります。自分たちのまちが好きで、自分のまちに暮らし続けたいと思えるような、「まちへの愛着」こそが、これからのまちづくりの原動力となるからです。そうした、「まちへの愛着」を持ったまちづくりの担い手(市民一人ひとり)を一人でも多く増やし、手をつないでいくことが未来につながる近道だと考えます。

富士見台地域は、国立市制のきっかけとなった国立富士見台団地があり、公共施設も集積した、魅力的な住環境を有する国立市を象徴する住宅市街地です。しかし、超高齢社会・人口減少社会が進展し、将来の先行きが不透明という不安感にあふれる中、将来に渡って、その暮らしやすさを持続するためには、市民、地域活動団体、行政、事業者等が協働でまちづくりを進めることが重要で、まちづくりのプロセスを通じて、市民を行政が応援し、行政を市民が応援し、市民同士が応援しあえる関係性を参加と対話によって築くことが重要です。それこそが「まちへの愛着」につながるからです。

この度、「国立市富士見台地域重点まちづくり構想(以下「構想」という。)」づくりというまちづくりへの参加と対話プロセスを通して、このまちには、地域固有の財産として「まちづくりのツボ」があることを再確認し、参加者の間で共有もできました。「まちづくりのツボ」とは、たくさんの暮らしを支える魅力的な場と、支え合いを生む豊かなコミュニティ活動等です。これらの富士見台地域に存在する「まちづくりのツボ」をさらに多くのわたしたちで共有し、魅力を高めながら継承していく取組を、国立市のこれからのまちづくりのモデルとして取り組みたいと考えています。

構想では、平成29(2017)年度に策定した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(以下「ビジョン」という。)」の実現に向けて、どのような考え方で、まちの整備や取組を進めていくのかを6つの整備方針で示しています。また、わたしたちが注目する「まちづくりのツボ」に対して、特に重点的・優先的に取り組むプロジェクトを絞り込み、着実にまちづくりを進めていくためのガイドラインを示しました。構想づくりを市民、地域活動団体、行政、事業者等が協働で始めたときから、まちづくりは、もう走り出しています。

今後は、わたしたち(一人ひとり)が取組の進捗や成果、取組から見えてきた課題などを共有し、各々の役割に応じて対話を続けることで解決策を見出しながら次に進めるプロセスをともに歩みたいと思います。